

## 干し草置き場で

アニー ジンメルル、ジンメルル、どこにいるの？

ジンメルル ここだ！

アニー どこ？

ジンメルル ここだ！

アニー 見えないわ。

ジンメルル そう言ったって、ここにいるんだ。

アニー 声は聞こえるのよ、でも姿が見えないの。

ジンメルル うん、わかっている。暗闇では何も見えるはずがないもの。

アニー でも、それならどうして声は暗闇でも聞こえるのかしら。

ジンメルル どうしてだろう？ 君は今、何か聞こえてるの？

アニー もちろん。あんたの声よ。

ジンメルル 何でよりもよって俺の声なんか？

アニー きつと他には誰もいないからでしょう。

ジンメルル ふむ、それは確かかい？

アニー もちろん、確かよ。さもなければ、他の人の声も聞こえるはずだもの。

ジンメルル 俺が何にもしゃべらなくても、俺の声が聞こえるかな？

アニー さあどうかしら。聞こえるかどうか、やってみたら？

ジンメルル よし。よく聞いてるよ、俺は何にも言わんぞ。

俺

が何も言わなかったのが、聞こえたかい？

アニー ええ、ちゃんと。「俺が何も言わなかったのが、聞こえたかい？」って聞こえたわ。

ジンメルル ふむ、それが聞こえたのか？ 他はどつだった？

アニー 他って？

ジンメルル つまり、俺が何も言わなかったってこと。

アニー ううん。うんと耳をすましていたけれど、何も聞こえなかったわ。

ジンメルル おかしなもんだな、耳って。

アニー そうね、本当に変なものね。 ねえ、ジンメルル、同じことを目

でも試してみましようよ。私が今、あんたを見ているかどうか、見ないでいて。

ジンメルル わかった。今、俺は見えてないぞ。俺は今、見

ていない、君は俺を見たかい？

アニー いいえ。

ジンメルル 本当に見なかったのかい？

アニー そうよ。

ジンメルル ふむ、君は今、どこを見てたんだ？

アニー どこも。

ジンメルル どうしてどこも見なかったんだよ？

アニー どこを見たら良かったの？

ジンメルル だからさ、俺の方を見るんだったんだろ。

アニー 暗闇じゃ、あんたを見えないわ。

ジンメルル どうしてだい？

アニー あんたにわからないことが、私にわかるはずないでしょう。私の方があんたよりずっと頭が悪いんだから。

ジンメルル あのな、アニー、そんなことはないよ、俺たちは二人とも同じ程度の馬鹿さ。そうでなかったら、こんな馬鹿話してないよ。

アニー 私たちが今、話していたことって、馬鹿げてるの？

ジンメルル そうだな、完全な馬鹿とは、まだ言えないな。

アニー まだ言えない？ それなら完全な馬鹿ってどんなの？

ジンメルル 完全な馬鹿ってのはな、例えば、もし俺が君にこう言ったとするとそつだ。「アニーや、耳をふさいでみな、俺が君の臭いをかけるか、見てみるから」

アニー へえ、それは完全な馬鹿なの？

ジンメルル うん、これなら完全な馬鹿だろうな。

アニー ああ、私は馬鹿だわ。何が完全な馬鹿なのか、今まで知らなかったんだもの。